



東公民館だより

令和4年1月号

令和4年1月5日発行

みどり市東公民館

TEL 97-2721

FAX 97-2424



みどり市マスコットキャラクター
みどモス

あけましておめでとうございます。

新型コロナウイルスがなかなか収束せず、皆さんにお会いする機会が少なくなったままになっています。

今年は、少しでも皆さんと楽しめる機会が増えればと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。

東公民館職員一同

東公民館主催教室 開催しました！

まんま筆教室



松ぼっくりツリーワークショップ



しめ縄リース 教室



参加いただいた皆さんは、楽しく真剣に作業に熱中していました。

できあがった作品は、ご自宅に飾っていただけたでしょうか？



東町人口【2021.11月末】

男	女	合計	増減(前月比)	世帯数
823	934	1,757	▲4	872



みどモス

紙上講座 「いにしえの東の旅」

高山彦九郎日記5



講師 藤井 実さん（東町花輪）

沢入宿より白蛇塔（相輪塔）まで、二里。所々で休み休みゆつくりと歩く。一里ばかりくんだり、登る時に休んだ所にもどってきた。その石に腰掛け、これから来る人の多くはここで休むだろう。『こしかけ岩』と名付けるべし。石もたくさんあるし休むにはいい所だ。道を下って不動滝が左に見える手前で沢を渡り、川の流れを右にして歩く。草木の「はち沢」にでる近道を通って、昼過ぎに沢入の宿に帰ってきた。

宿の主人に、案内してくれた者に銅銭百文と僅かな銭だが酒を飲んでくれといつて道乗君が渡した。新八は喜んで受け取った。主人は草餅と葉つ葉の漬物をくれたので、道乗君がその代金を払おうとしたのだが、主人は受け取らなかった。

主人は又是非遊びに来て下さい。私達が新田を訪ねさせてもらったときにはと、固く辞退されてしまった。

宿を発った。宿を左に出て一丁（百メートル）余り行くと、渡良瀬川の流れの中に瀬が連続し川は深く渦を巻いている。ここを「おだまき」という。兩岸は高く白い岩が続き、まことに絶景である。道ばたから川面まで石が連なり、白い筋が一すじあるようだ。橋をわたり昨日泊まった宿の方を見ると、同じ白い筋がずっと続いている。珍しい景色だ。

*次回はいよいよ最終回です。



※彦九郎はこの旅の八年後、寛政二年（一七九〇）年十一月十九日にも奥州への旅の帰り道に東を通ったことが、自身の『北行日記』に書き記されています。

あずま文芸

俳句



枯葉舞う 駅舎の一面 そば屋明く
よその子も みんな神の子 七五三
南天や 庭彩りて 揺れてをり
湯煙りを 観守り桂 観世音

影沢 美代子
米田 展彗
高瀬 安代
千葉 正篤

短歌

梅の枝 南天 スイセン 組合せ
床の間に活け 正月気分
溪流のこちよき音 聞きながら
詩を思いつ 落葉踏み行く
歳重ね 友の造りし青物は
夫との食卓 彩り和む



今泉 紀美代
金子 照子
高畑 美智子



今年度は、6回に渡り240年前の東町の様子を高山彦九郎（江戸時代中頃の勤王思想家で幕末の勤王の獅子たちに大きな影響を与え、明治維新に導いた人物）の旅日記を通してお伝えしています。今回は、相輪塔からの帰り道です。

一月四日は、東町出身の童謡の父 石原和三郎の百回目の命日です。一八六五年に花輪で生まれ、一九二二年に東京で亡くなるまで、教育者・編集者として、童謡・唱歌・教科書など、数多くの作品を残しました。明治大正時代の郷土の偉人の一人です。

東町には、童謡ふるさと館や旧花輪小学校記念館の他にも、和三郎の掛軸や書簡など関連資料が残されています。今年度は、節目の年ですので、和三郎の企画展を計画しています。所蔵している資料を貸していただける方は、東公民館にご報下さい。「うさぎとかめ」や上野唱歌など、東公民館のロビーにもミニ展示しています。遊びに来て下さい。